

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

2018年1年間の人口増減を長野県が発表。白馬村が県内でも最も高い増加率2.2%、前年を199人上回ったと公表した。外

国人居住者も人口に含まれ、村人口の約1割に当たる971人、この5年間で3倍近くに増えた。

通年営業を視野に入れた観光施設や複合商業施設、外国資本のホテルの営業が本格化し、今後益々通年を捉えた山岳リゾート展開が積極的に実施されていくのだろう。国内の高齢化・少子化による日本人旅行者の減少を補う勢いで外国からのお客様をターゲットにした観光事業に幾多の困難も有りながら対応している白馬の力強さを意識している関係者も多いはずだ。

観光現場の専門的スタッフの育成と確保が大切と考えていた時、映画を鑑賞する機会があった。2011年に

で検事・総理大臣・天才外科医などさまざまな役を演じている大好きな俳優の1人でもある。これまで演じてこ

ななかった刑事役、変わり者で心が曲げられないう役どころを、どの様に演じるかも楽しみのだった。

通年化する国際リゾートを担う観光スタッフの育成は地域ぐるみの課題だ

「マスカレード・ホテル」だ。作品を描くときに木村拓哉さんを、主演イメージに漠然と思いつかべて書いたのが縁。S.M.A.Pのメンバーとしてデビュー、ドラマや映画など数々の作品で活躍し、今ま

に演じるかも楽しみのだった。エリート刑事が、潜入捜査でホテルマンに扮する役どころ。ホテルマンの中に刑事らしさをにじませる難しい演技に堪能する。マスカレードとは仮面。ホ

テルに現れる素性の知れない宿泊客を巡り、刑事として宿泊客の仮面を剥がそうとする刑事と、お客様の安全が第一優先とのポリシーから宿泊客の仮面を守ろうとするホテルマ

ン。まさに水と油の立場の違いから幾度となく衝突を繰り返す内容。宿泊客からの理不尽な要求に対して「ルールを決めるのはお客様だ」と誠心誠意対応するホテルマンのプロ意識が映像で鮮

明化するたびに、今後大北地域の観光現場の在り方に求められるレベルの高さの厳しさが心配になる。国際リゾートと認知される要素の、確かな人材をどの様に確保し、育成していくのか認識できたからこそ、地域の観光関係者にも是非鑑賞してほしいと思わせた映画もあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



外国人の、街の散策や買物風景が日常の毎日に。人が繰り成す素敵な接客が求められている